

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人清幸会	代表者	池田 香織	法人・事業所の特徴	那須塩原市、那須町に特別養護老人ホーム（4施設）小規模多機能型施設（4事業所）グループホーム（3事業所）デイサービス（2事業所）認知症デイ（1事業所）居宅介護支援（1事業所）地域包括（2事業所）があり、利用者のニーズや身体状況に合ったサービスの提供を行うことができます。
事業所名	まつばら荘	管理者	浅石 亜紀子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	1人	0人	2人	1人	0人	9人	0人	18人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼夕礼に出席した職員からの引継ぎ不足が浮き彫りになっており、いかに正確に漏れなく引き継げるかが課題であることから、申し送る側だけでなく受ける側も積極的に行動するよう意識の改善をしていく。 設定した個人目標に対して、実態と目標の差について反省と改善を行ったうえで、それを土台とし、更なる目標の設定を行い、自己改革の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全体が同じ方向を向き、本人や家族のニーズを把握し実現へ努める。 利用者様と寄り添える時間を設ける為、一人一人が業務の効率化を行っていく。 申し送りを漏れなく伝える為、報連相の徹底、チームワークアップに努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々のミーティングで職員間の情報交換が反映され、改善の必要があれば具体的に目標を立て、取り組んでいる。 職員が自分ごととして取り組み、事業所全体の評価を取りまとめている印象。このまま評価と改善に向けた取り組みをして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> チームワーク向上の為に、正確な情報交換を行い、同じ方向を向き注意し合える環境を作っていく。 利用者様と寄り添える時間を設ける為一人一人が業務の効率化を行い、日々向上、改善に向けて業務を遂行する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットの更新は引き続き定期的に内容を確認し、必要に応じて見易さなどの改良も含め更新していく。 職員自身を知って頂く良い媒体として、来年度も積極的に取り組んでいく。利用者様にも楽しんで頂けるよう、小規模及びグループホームでチームとして一体感が感じられるよう続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様のニーズの把握を全職員が行い、目標実現に向けた機能訓練体操やレクリエーションを考え実行に移せるようにしていく。 利用者様の以前の生活環境を把握しより良い支援を行えるように、利用者様との関りの時間を業務の中で設け、職員間で情報共有を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方、家族との信頼関係を築くための努力がみられる 利用者様のための環境整備への更なる取り組みを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族との信頼関係を築き、利用者様へより良い支援を行う為に、パンフレットやお便りを通し事業所を知っていただき情報交換がしやすい環境づくりを行っていく。 利用者様のニーズの把握を職員全体で行い、レクリエーションをただこなすのではなく一人一人が利用者様の目標実現に向け意識して行っていく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が今後も長引くと予想されるからこそ、自信を持って地域の方に発信できるよう、どんなに小さな困りごとや相談事でも真摯に丁寧な対応を心掛けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が同じように利用者様の体調や状態の変化を把握できるように報告、連絡、相談を徹底して行い早期発見、早期対応できるようにする。 ・職員は日々の業務をただ遂行するのではなく利用者様一人一人の状態に合わせて適宜対応できるように自ら考え工夫を凝らしスキルアップを目指す。全体のチーム力向上に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを積極的に推進できる環境を整えていく必要がある。 ・感染症対策への配慮から制限されることが多々あると思う。状況に応じて可能な範囲での取り組みを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員で事業所が地域の中でどう在るべきかを把握し、各々がより良い環境づくりの為に目標を持って業務に取り組んでいく。 ・感染症対策へ配慮し、可能な範囲での地域の関りを増やしていく。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源は多岐に渡り、当施設とのかかわりが薄い資源もあるため、更に理解するため今後も研修を継続する。また、利用できる地域資源があれば積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源についての見分を広げるために研修等を行い、コロナ禍により関わりの無かった地域資源を活用し地域と協力し幅広い支援を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ終息後に向けた地域の方々との関わりやイベントに向け参加を目指している。 ・地域資源の活用について見聞を広め、積極的に取り入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源についての見聞を広げるために研修等を行い、コロナ禍により関わりの無かった地域資源を積極的に取り入れていく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当面書面開催が継続されることを見越してアンケートを積極的に活用していく必要がある。事業所側の知り得たい情報と、地域が知り得たい情報が互いに得られるよう努める。 ・引き続き、まつばら便りにて発信を続ける。また、内容については随時改良を重ね、より分かりやすく伝わるよう努力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新人職員が他職員と協力し利用者様の変化に対応できるように、情報の報告、連絡、相談を徹底していく。 ・業務の中で起きるミスや苦情を減らすべく、職員同士がフォローし合うために、職員間の信頼関係の確立、注意喚起し合えるよう良好な関係作りに努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所側と地域が知り得たい情報が互いに得られるように努力していく必要がある。 ・アンケートの取りまとめと会議議事録の共有があり、運営推進会議の実施状況が確認しやすい環境が出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所側と地域が知り得たい情報が互いに得られるように、会議の中で質疑応答の時間を設け、円滑に情報交換を行っていく。 ・事業所を知っていただくためにまつばら便りを発信し誰でも分かりやすく、見ていて楽しめる内容になるよう努めていく。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症のみならず、防災や災害対策についても常日頃からいざという時を想定し、引き続き全職員が積極的に予防訓練を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修ではスキルアップに向けた内容の充実を行い、コロナ終息後に職場外研修の機会を設け、参加しやすい環境を整える。 ・利用者様を同時に対応する際にリスク防止を努めつつ、適切な声掛け、適切な対応を行えるよう力を養っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害がいつ来ても適切な対応がとれるように避難訓練や非常災害時の対応に関する研修は必須だと考える。 ・令和6年4月1日から業務継続計画(BCP)の策定が義務化になり、策定に向けて検討内容を固めて行って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害がいつ来ても適切な対応がとれるように常日頃から訓練を全職員が真剣に取り組めるように意識付けを行っていく。
----------------------------	---	--	---	---